

第2学年 国語科学習指導案

日 時 平成21年 9月30日(水) 6校時

対 象 男15名 女11名 計26名

指導者 藤 嶋 茂 美

- 1 単 元 名 だいじなところに気をつけて読もう (光村図書 上)
主教材名 「サンゴの海の生きものたち」 (説明文)
補助教材名 「糸で生きる虫たち」 (東京書籍 上)

2 単元について

(1) 児童について

児童はこれまでに、1年上「いろいろなくちばし」で説明されている事柄の大体を読み取ることとを学ぶと共に、問いと答えという基本的な形式に触れてきた。「じどう車くらべ」では、「問題提示→説明」という構成の文章を学んでいる。また、2年生になってからは、「たんぼぼのちえ」で時間の順序に気をつけて読むことを学ぶとともに、補助教材の「たんぼぼ」と比べ読みをすることで、説明文の表現の面白さを味わってきた。

2年生になってからの学習の様子および実態は次の通りである。

- ・音読は毎日行っている。よどみなく読む児童がいる一方、言葉や文をまとまりとして読めない児童がいる。
- ・発言の意欲は高いが友達の考えへの関心が弱く、話し合いにおいて集中を欠く児童が多い。

国語の授業について(4月調査)、26人中23人が「(ときどき)楽しい」と感じている。また、説明文を「(すこし)好き」と感じているのは、24名である。

(2) 教材について

小学校学習指導要領国語科第1学年及び第2学年の「読むこと」における目標は「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身につけさせるとともに楽しんで読書しようとする態度を育てる。」である。

主教材「サンゴの海の生きものたち」は、サンゴの美しい海の中での生き物の共生について説明している文章である。文章構成は、「はじめ」「中」「おわり」になっている。「はじめ」の部分では、「どんな生きものたちが、どんなかかわり合いをしているのでしょうか。」と課題を提示している。「中」の部分では共生の例として、「イソギンチャクとクマノミ」「ホンソメワケベラと大きな魚たち」の二つの具体例が挙げられている。イソギンチャクとクマノミは毒の針と威嚇音という体の仕組みによって互いに外敵から守り合う関係である。また、ホンソメワケベラと大きな魚たちは、ホンソメワケベラがしている「そうじ」が、食べ物を得たり健康を保ったりする互いの利益になる関係である。「終わり」の部分では、課題に対する結論が述べられている。

補助教材は主教材と同様に生き物「昆虫」について述べていて、構成も「はじめ」「中」「おわり」となっている。糸を上手に使う虫たちが「どんな工夫をしているのか。」を4事例で説明した文章である。今回の指導では、主教材で学習したことを生かし、問題提示文にそって、文章の大体を読み取ると共に、2作品に共通する生き物の工夫のすばらしさや面白さを味わわせたい。

(3) つけたい力と読みの方法 【つけたい力】 ○読みの方法

【大事な点についておさえて読み取る力】

○キーワードを確かめ、まとめる。

主教材では基本的な指導過程をたどりながら、全体で読み進める。まず、問題提示文に沿って、キーワード（問題に対して、簡潔に答えている言葉）について話し合う。そして、確かめたキーワードをもとに、全体で答えをまとめる。補助教材では、4つの事例の中から、一つを選び、問題提示文に答える形で自分の力でまとめる。

【興味をもって読もうとする力】

○写真と表現を対応させる。

いずれの作品にもきれいな写真が使われている。写真と表現を対応させることで、書かれている内容に対する興味関心を高めたい。

○事例を選択し、虫の視点で紹介文を書く。

4事例の中から自分で気に入った虫を選択させ、虫の視点で紹介文を書くことを通し、主体的な読みの態度を育てたい。

3 単元の目標と評価規準

	単元の目標	評価規準
国語への 関心・意欲・態度	○ 生き物の関わり合いに興味をもって、本や文章を読もうとする。	・自分の知らない世界に興味をもって、本や文章を読んでいる。
書く能力	○ 紹介の様式に沿って、語や文の続き方に注意しながら文や文章を書くことができる。〈書くこと ウ〉	・紹介の様式に沿って、「生きものカード」や紹介文を書いている。
読む能力	◎ 海の生きものたちが互いに役立っていることを、事柄の順序を考えながら読むことができる。 〈読むこと イ〉 ○ 語や文のまとめりや内容、言葉の響きなどについて考えながら、声に出して読むことができる。 〈読むこと ア〉	・海の生きものたちが互いに役立っていることを読み取り、その関わり合いについてまとめている。 ・語や文のまとめりを意識し、内容について考えながら声を出して読んでいる。
言語についての 知識・理解・技能	◎ 片仮名を読んだり書いたりし片仮名で書く語を文や文章の中で使うことができる。〈言語事項〉	・「生きものカード」や「紹介文」の中で、片仮名で書く語を正しく使っている。

4 単元の指導計画と評価規準(1 2時間扱い)

段階	時	学習活動	国語への 関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
見 通 す	1	1 学習の見通しを持つ。 (1)海の生き物について、話し合い、題名から内容を予想する。 (2)全文を読む。(範読) (3)感想を書く。 (4)音読の練習をする。 (5)新出漢字の学習をする。	・海の生き物に興味をもって、話し合ったり、本を読んだり、文章を書いたりしている。 (観察)		・語やまとまりに注意して、正しく、はっきりと読んでいる。 (音読)	・新出漢字や片仮名を正しく読んだり、書いたりしている。 (ノート)
	2	2 学習計画を立てる。 (1)形式段落に分ける。 (2)全文を読んで、内容をおおまかにつかむ。 (3)読みのめあてを提示する。 ※生きものについて、並行読書をする。			・問いの文を見つけ読みのめあてをとらえている。(観察) ・関連した本を選んで読んでいる。 (観察)	
深 め る	3	3 生き物たちの特徴と関わり合いについて、読み取る。 (1)生きものの特徴を読み取る。			・大事な言葉に気をつけて、関わり合いについて読み取っている。 (発言・ノート)	
	4	(2)「クマノミ」と「イソギンチャク」の関わり合いを読み取る。				
	5	(3)「ホンソメワケベラ」「大きな魚」の関わり合いを読み取る。	・海の生き物に興味をもって、話し合ったり、本を読んだり、文章を書いたりしている。 (観察)		・語やまとまりに注意して、正しくはっきりと読んでいる。 (音読)	・新出漢字や片仮名を正しく読んだり、書いたりしている。 (ノート)

まとめる	6	4 海の生き物たちの関わり合いについてまとめる。			・海の生きものたちの関わり合いについてまとめている。 (ワークシート)	
	7	5 生きものカードを作る。 (1)教材文の生きものについて振り返る。 (2)生きものの本のブックトークを聞く。				
広める	8	(3)生き物の本を読む。			・紹介したい生き物の本を読んでいる。(観察)	
	9	(4)カードに書く。		・紹介の様式に沿って生きものカードを書いている。(生きものカード)	・生き物の特徴の大体を読み取っている。(カード)	
	10	(5)読み合う。				
本時	11	6 補助教材を読む。 (1)難語句について説明しながら範読する。 (2)紹介文を書く。	・虫の生態に興味を持って読んだり、文章を書いたりしている。 (観察)	・紹介文を書いている。 (ワークシート)	・虫の工夫の大体を読み取っている。 (紹介文)	
	12	(3)虫の工夫を紹介し合う。 (4)ワークシートに虫の工夫をまとめる。			・虫の工夫を読み取っている。 (発表) (ワークシート)	

5 本時の指導

(1) 目標

虫たちの糸を使った工夫について紹介し合い、それぞれの虫の工夫を自分の力でまとめるとともに、虫たちの生きる知恵を感じることができる。

(2) 評価の観点と具体的評価規準

観点・具体的評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 支援を要する児童への手立て
読む能力	教科書の表現を基にして、言葉を加えながら自分の力で虫の工夫をまとめることができる。	教科書の表現を抜き出して、虫の工夫について自分の力で書くことができる。	板書のキーワードを確かめながら、一緒にまとめる。

(3) 展開

段階	学習活動 ○発問 ・期待する児童の反応	教師の関わり方 ・留意事項 ◎評価
見通す 5分	1 前時の学習を想起する。 ・虫の名前を確認する。 2 学習課題を確認する。 虫たちの糸をつかたくふうをしようかいしよう。	・簡潔に想起させる。 ・虫の写真と名前カードを活用する。 ・前時に書いた紹介文を交流し、虫の工夫についてみんなでまとめることを確かめる。
深める 35分	3 全文を読む。 ・一斉読み・グループ読み 4 グループで紹介文を読みあう。 5 虫たちの工夫を読み取る。 (1)代表が紹介文を発表する。 (2)虫の工夫について話し合い、ワークシートにまとめる。 ・カイコガ ・アオバセセリ ・ハネナシコロギス ・ホシミスジ (3)虫の工夫についてまとめる。	・「問いかけ」「まとめ」は全員で、説明の部分はグループごとに読むことで、構成を意識させる。 ◎自分が書いた紹介文を相手に分かるようにはっきり発表できたか。 ・4種類の虫について、それぞれ「発表→まとめ」という流れで、まとめていく。1事例について、3人程度発表させたい。 ・発表を聞きながらキーワードを板書し、虫の工夫を全体で確かめていく。 ・話し合いを基に、ワークシートに虫の工夫を自分の力でまとめさせる。 ◎自分でまとめることができたか。
まとめる 5分	6 感想を述べ合う。 7 単元のまとめをする。	・主教材を想起させながら、「生き物の知恵」の素晴らしさにも気づかせていきたい。 ・生き物に関する読書活動を奨励する。

(4) 板書計画

<p>糸をじょうずにつかっ て生きています。</p>					<p>虫たちの糸をつかっ たくふうをしよう かいしよう。</p>
	<p>ホシミスジ えだをつなぐ さなぎのおなかと</p>	<p>ハネナシコロギス すをつくる はっぱをつなぎとめる</p>	<p>アオバセセリ すをつくる ロープやせつちやくぐさ</p>	<p>カイコガ まゆをつくる さなぎはまもられる</p>	